

イノシシの基礎知識

【生息環境】

里山の雑木林などを好むとされ、身体を隠すことができる草むらや藪、耕作放棄地を好んで利用します。

【行動圏】

行動圏は2～3 K m²で季節により変化します。行動圏の中では、移動と定着を繰り返します。

【活動時間】

昼夜を問わず活動します。

人を警戒しているときは、日没後から夜間に活動が活発になります。

【繁殖】

出産期は4～6月頃で、毎年2～7頭（平均4～5頭）を出産します。

春の出産に失敗した場合、秋にも出産を行う場合があります。

野生下での平均寿命は10歳前後とされています。

【性格】

警戒心が高く臆病で注意深いですが、危険を感じたときや、過剰に興奮した際には、攻撃的になります。

人や人の生活環境に慣れると、行動が大胆になります。

【知能】

学習能力や記憶力が高く、人の活動や、人の設置した構造物を学習し、柔軟に行動を変化させます。

【身体的特徴】

優れた嗅覚を持ち、鼻で地面を掘り起こしたり、重い石等を動かしたりします。

鼻の力は非常に強く、50～70 kgの物を動かすことがあります。

跳躍力にも優れています。

【外観】

体毛は太く、剛毛で電気を通しにくい。（電気柵でショックを与えるのは鼻です）

【行動】

柵の上を越えるよりも、下をくぐって通り抜けようとする傾向があります。

地面から上に20 cm以上の隙間があれば、潜り抜けようとします。

侵入防止柵設置に共通する注意点

✓ 防除すべき場所の全周を柵で囲う！

イノシシの生息地側の面だけを囲っても、やがて回り込まれてしまうため、全周を囲いましょう。

✓ 急峻な傾面に柵を設置しない！

柵が土砂の堆積や落石で破損しやすく、ほころびた箇所からイノシシが侵入しやすくなります。また、斜面の上から飛び込まれるリスクが高まるため、柵は急峻な斜面に設置しないようにしましょう。

✓ 斜面の直下に柵を設置しない！

斜面の上から柵の中に飛び込まれるリスクが高まります。斜面の下に設置するときは、斜面から離して柵を設置しましょう。逆に、斜面の上に柵を設置すれば、飛び込まれるリスクが軽減されます。

✓ 藪の近くに柵を設置しない！

イノシシが藪に隠れて柵に接近しやすくなり、時間をかけて柵を破られるリスクが高まります。また、柵の間近に藪が接近していると、柵の維持・管理、補修等の作業が実施しにくくなり、管理が不十分になります。藪を刈り払うか、藪から離して柵を設置し、人が十分に歩けるスペースを確保しましょう。

✓ イノシシの口が届く範囲に作物を植えない！

柵の内側であっても、柵の隙間からイノシシの口が入ってしまえば、作物を食べられることがあります。また、イノシシにとって届く範囲に作物があれば、力任せに無理やり柵を突破されるリスクが高まります。作付面積が減少してしまいましたが、柵から離して作物を植えましょう。

✓ 地形の起伏に合わせて柵を設置する！

傾斜や窪みのある地形では、柵の下や柵と柵の間に隙間ができやすくなるため、出来るだけこのような地形は避けましょう。やむを得ず設置する場合は、窪んだ地形に合わせて隙間ができないように丁寧に柵を設置してください。

基本的な設置方法

(電気柵)

- ✓ 本体の出力能力を越えた長い距離で設置しない。
- ✓ アース棒は、湿り気のある地面に深さ 30 cm以上打ち込む。
- ✓ 原則的に平坦地に張るのが望ましいが、やむを得ず斜面に設置する場合は斜面から垂直になるよう支柱を立てる。
- ✓ 高低差を含む場合は、支柱を増やし、電線の高さの間隔を維持する。また、下に隙間が出来てしまうところは、適宜電線を追加する。
- ✓ 碍子 (ガイ) は支柱の外側に来るように設置する。支柱の方が線より外にあると鼻で押され感電する前に支柱が倒されやすくなる。
- ✓ 一番下の線をイノシシの鼻先 (地面から 20 cm程度) の高さに張り、以降 20 cm 間隔で張る。(体毛に覆われた部分は感電しにくいので、敏感な鼻先に電線があたるイメージ)
- ✓ 断線した場合に備え、50~100m 毎に上下線を結線する。
- ✓ 電圧は 4,000~8,000V を保つよう頻繁に点検する。
- ✓ 伸びた草が電線に触れていると、ここから漏電してしまい、イノシシに与える刺激が小さくなってしまう。
- ✓ イノシシが踏む地面が乾燥していたり、コンクリートやアスファルト舗装・砂利等であったりすると、電気が十分に流れず、イノシシに与える刺激が小さくなってしまう。
- ✓ 日中でも人が近くにいない時間帯はイノシシが出没するため、24 時間通電する。
- ✓ 農作物がない時期で農地に入られても構わないという理由で通電せずに電気柵を張り続けると、感電しない電線の存在に慣れてしまい、通電後に突破されやすくなる。農地に作物がない時期で、必要がないときは電気柵の電線は撤去する。または、農作物がない時期でも通年通電させる。

定期点検項目 チェックリスト

(電 気 柵)

電気柵の電圧の確認

電圧が低下している場合は、バッテリーの能力低下や、漏電、電線の過剰な延長を疑い、点検する。電圧のチェックは、電牧機本体から離れた地点で行う。

電線の張り具合の確認

電線が緩んで隙間が広がっていないか確認し、高さを調節する。

周辺の植生の確認

草や植物の蔓（かずら）が伸びて電線に接触していないか確認する。定期的に草刈を行う。

周辺の地面の確認

電気柵周辺が舗装等されている場合は、電気柵を耕作地の内側に後退させ、電気柵に接近したイノシシが電線に触れるときに湿った土を踏むように位置を調整する。

碍子（ガイ）の向きの確認

碍子が内向きに取り付けられていないか確認する。内向きに取り付けられているものがあれば、外向きに直す。

基本的な設置方法

(ワイヤーメッシュ柵)

- ✓ ワイヤーメッシュの高さは 1m 以上とする。
外側より設置面が低い場合は、柵の中に飛び込まれるリスクが高まるので、ワイヤーメッシュの高さを確保する。(ワイヤーメッシュを適当な大きさに切断し上部に追加する・針金やマイカ線を上部に追加するなど)
高さが確保できない場合は、飛び越えられそうな位置から離して柵を設置すれば、飛び込まれるリスクが軽減される。
ワイヤーメッシュの上部 30 cm を外側に 20~30 度曲げて使うとより効果的。(忍び返し柵)
- ✓ ワイヤーメッシュの目合は、幼獣等の通り抜けを防ぐために 10 cm 以下のものを使用する。(イノシシの場合)
- ✓ 支柱は直径 13mm 以上の強固な鉄筋を用いる。
- ✓ ワイヤーメッシュの縦棒が外側になるような向きで設置する。
(イノシシがワイヤーメッシュの横線に噛みついて手前に引っ張られたときでも、横棒と縦棒の溶接部が外れにくい。)
- ✓ 地形の変化点では、ワイヤーメッシュを多めに使用して、隙間ができないように重ねて設置する。(切れ端をスキ間にはり合わせて固定しても良い)
- ✓ 支柱は地面に 30 cm 以上打ち込み、ワイヤーメッシュ自体も地面に少し打ち込んで(踏み込んで)、イノシシが下から持ち上げにくくする。(潜り込み、持ち上げが発生しそうな場所は、単管パイプ等を下部に設置すると強度が増す)
- ✓ ワイヤーメッシュと支柱は針金でしっかり固定する。基本的に、メッシュが交差するところに 2 か所以上、支柱ごと針金で結束する。結束場所の一番下は、地面近くとする。(ワイヤーメッシュを 1 マス重ねるとグラつきにくく強度が増す)
ワイヤーメッシュと支柱の結束が弱いと、そこからイノシシが侵入する。

定期点検項目 チェックリスト

(ワイヤーメッシュ柵)

□ 柵の下部の確認

柵の下部に掘り起こし、持ち上げによる隙間が出来ていないか確認する。また、完全に隙間が開いていなくても、掘られた形跡があれば、その後徐々に掘穴が広がる場合があるので、発見したら放置せずに掘り跡を埋め直すか、支柱を設置して補強する。

□ 柵と柵の間の確認

ワイヤーメッシュが横にずれて隙間ができていないか確認する。隙間が出来ていた場合は元に戻し、支柱とのワイヤーメッシュの結束、ワイヤーメッシュ同士の結束を確認し、必要に応じて支柱を追加で設置し強力に固定する。

□ 柵の変形・溶接箇所の破損の確認

ワイヤーメッシュの形状や溶接箇所を確認し、変形や破損がないか確認する。このようなトラブルが頻発するようであれば、資材の強度が不足しているおそれがあるため、より強度の高い資材を準備する必要がある。

□ 柵の外側の確認

柵の外の植生が伸びて藪になっていないか確認する。イノシシが藪に隠れて柵際まで容易に接近できる状態であると、隠れながら長時間かけて柵を破壊する可能性がある。また、藪が濃いと、柵の点検時に異常に気づきにくくなるため、定期的に藪を刈り払って見通しを良くする。